令和８年度全国学力学習状況調査　札幌市立北白石中学校

【中学校国語】　　教科に関する調査の結果概要及び改善の方向等について

本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
【領域】 □ 話すこと・聞くこと（思考・判断・表現） ：全国平均と比較して正答率がやや低い。 □書くこと（思考・判断・表現） ：全国平均と比較し改善が必要な状況。 □読むこと（思考・判断・表現） ：全国の正答率を下回っており課題がある □言葉の特徴や使い方（知識・技能） ：全国の平均正答率と比較して低迷している。 □情報の扱い方（知識・技能） ：全国の正答率と比べ大きく下回っている。 □我が国の言語文化（思考・判断・表現） ：全国平均を下回る傾向がある。	●【話すこと・聞くこと】 ：話し合いで結論を導くために自分の考えをまとめること。 ●【書くこと】 ： 読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすこと。 ●【読むこと】 ：辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉え抜き出すこと。 ●【言葉の特徴や使い方】 ：漢字の知識や使い方を理解し、適切に使い分けること。 ●【情報の扱い方】 ：情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うこと。	○【話すこと・聞くこと】 ：話し合い活動を通し、他者の意見を尊重し考えをまとめる。 ○【書くこと】 ：書いた文章を交流し、表現の工夫や改善点を検討し合う。 ○【読むこと】 ：語句の意味を辞書で確認し、文脈に即して捉える学習を行う。 ○【言葉の特徴や使い方】 ：漢字の意味と用例などをセットにして正しく書く練習を積む。 ○【情報の扱い方】 ：情報を図表等で整理し、関係性を捉え活用する活動を行う

令和８年度全国学力学習状況調査　札幌市立北白石中学校

【中学校数学】　　教科に関する調査の結果概要及び改善の方向等について

本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
【領域】 □数と式（知識・技能） ：全国の平均正答率と比較し概ね良好。 □数と式（思考・判断・表現） ：全国の正答率と比較して改善が必要。 □図形（知識・技能） ：全国の正答率に比べやや下回る傾向。 □図形（思考・判断・表現） ：全国の正答率を下回っており課題がある。 □関数（思考・判断・表現） ：全国の平均正答率と比較しやや低調。 □データの活用（思考・判断・表現） ：全国の正答率と比較しやや下回っている。	●【数と式】 ：事柄の特徴を文字式の計算結果から読み取り説明すること。 ●【図形】 ：具体的な事象から証明に必要な仮定を見いだすこと。 ●【図形】 ：条件に基づき、筋道を立てて三角形の合同を証明すること。 ●【関数】 ：グラフから読み取った事象を数学的に解釈し説明すること。 ●【データの活用】 ：度数分布多角形の特徴を比較して傾向を捉え説明すること。	○【数と式】 ：文字を用いて事象を説明し、その結果を考察する学習を行う。 ○【図形】 ：証明すべき事柄から逆算して、必要な仮定を見つける練習を行う。 ○【図形】 ：合同条件を確認し、論理的に筋道を立てて記述する演習を積む。 ○【関数】 ：グラフの変化を具体的な事象と結びつけて説明する活動を取り入れる。 ○【データの活用】 ：複数のグラフを比較し、データの傾向を根拠をもって説明させる。

令和８年度全国学力学習状況調査　札幌市立北白石中学校

【中学校英語３技能】公開問題の結果から見る、教科に関する調査の結果概要及び改善の方向等について

本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
【領域】 □聞くこと（情報の聞き取り） ：全国の予測正答率と比較し概ね同等。 □聞くこと（状況に応じた理解） ：全国の期待される正答率に近い。 □読むこと（要点・意図の把握） ：全国水準の予測正答率を下回る傾向 □読むこと（視覚情報との関連） ：全国の解答状況と比較して課題がある。 □書くこと（条件に基づく記述） ：全国の予測スコアに比べ正答率が低いです。 □書くこと（まとまりのある文章） ：全国の解答状況と比較し改善が必要。	●【書くこと】 ：アナウンス等の音声から、自分の置かれた状況に必要な情報を聞き取ること ●【読むこと】 ：日常的なメールの文脈や意図を正確に読み取ること。 ●【読むこと】 :Web 上の条件とメッセージを正確に読解すること。 ●【読むこと】 ：グラフ資料と言語情報を関連付け正しく捉えること。 ●【書くこと】 ：示された条件に合わせて適切な英文を表現すること。 ●【書くこと】 ：自分の考えや理由をまとまりのある文章で書くこと。	○【聞くこと】 ：アナウンス等の音声情報を聞き、実際の場面を想定して必要な情報を捉える活動を行うこと。 ○【読むこと】 ：英文の意図や要点を素早く捉える多読指導を推進する。 ○【読むこと】 ：条件を含む情報から必要な英文を正しく探す演習を行う。 ○【読むこと】 ：視覚資料と英文を照らし合わせて読む活動を取り入れる。 ○【書くこと】 ：指定された条件や場面に合わせて書くアウトプットを行う。

令和８年度　全国学力・学習状況調査　質問紙調査の結果概要及び改善の方向等について

本校の概要

□【学習について】
：授業外の学習時間が少なく、PC 等の機器を学習目的に使用する時間が短い傾向。学校での読書時間は確保されている。

□【学校生活について】
：学校に行くのは楽しいと感じる生徒が多く、学級での話し合いなどの場面に好意的。

□【生徒の内面について】
：自分によいところがあると思う生徒や将来の夢を持つ生徒が多くなく、自分にはよいところがないと感じる生徒も一定数います。

□【家庭生活・生活習慣について】
：朝食の摂取や起床時刻など基本的生活習慣は不規則。PC やスマホ等で動画やゲームをする時間が長い傾向。

今回の調査における課題

●【学習について】
：授業外での学習時間が少なく、家庭学習の習慣化と PC・タブレットを学習に活用する時間の充実化。

：英語を使って自分の考えを書く活動や、日常的に英語を使う活動の機会を増やすこと。数学において、言葉や数、式を使って説明する記述式の問題への対応力を強化すること

●【学校生活について】
：授業で自分の考えを深めたり、発表したりする主体的な学習活動の機会をさらに充実させること。

●【生徒の内面について】
：自己肯定感（自分にはよいところがあると思う気持ち）をさらに高めるための活動場面や機会、それらの支援と指導の継続。

●【家庭生活・生活習慣について】
：スマホや PC 等での動画視聴やゲーム等の使用時間が長いため、利用時間の適正化を図ること。

改善の方向

○家庭学習の意義を伝えながら、授業では ICT を活用した効果的な学習方法を指導し定着を図る。

○話し合い活動や ICT 機器の活用を通して、論理的な思考をもとに、自分なりに言語化を図り他者に伝える機会を増やす。

○授業内でペアやグループでの対話を取り入れ、主体的に考えを発表する場を設ける。

○日々の活動で生徒の良さや頑張りを認め、そこに価値付けをすることで自己有用感を高める声掛けを継続する。

○家庭と連携し、スマホ等の利用ルールを見直し、適切な利用時間の目安を共有する。

○社会性や情動の学習、協同学習、学びのユニバーサルデザイン等の研修を続け、教師の生徒との関わりを研修していく。